

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばと発達のサポートルームマープル		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 15日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 2月 15日		～ 令和8年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ABA(応用行動分析学)を学んでいるため、専門職(言語聴覚士)が訪問しているがことばに限らず行動全般に対するの助言ができる。	訪問先の文化に合わせ、その場の資源・人材で達成可能な助言を行うよう意識している。	ABA分析シート等を用いて、助言に対する根拠を示せるよう取り組んでいきたい。
2	言語聴覚士が訪問しているため、食べる機能や技能に対するの具体的な助言ができる。	食べる機能や技能に関して、より深く学んだり、各専門機関と連携が取れるようなグループに所属している。	食べることに関してのトラブルを事前に防げるよう勉強会や研修会を企画している。
3	地域において、フリーランスとして活動していた言語聴覚士が訪問しているため、園内の調整だけでなく社会的資源についての助言ができる。	地域の勉強会や研修会には積極的に参加するようにしている。	地域で行われる園の先生方や事業所のスタッフを対象とした勉強会や研修会の講師依頼を積極的に受けるようにしている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援の希望に対し充分に対応出来ていないケースがある。	訪問できるだけのスキルのあるスタッフが不足している。	社内での研修や外部研修への参加、訪問時に同行させる等の取り組みをする。
2	訪問先の受け入れが難しく、断られるケースがある。	保育所等訪問支援の知名度の向上や対象地域での弊社の信頼を積み重ねていく必要がある。	地域で行われる園の先生方や事業所のスタッフを対象とした勉強会や研修会の講師依頼を受けた際に保育所等訪問支援での事例報告もするようにしている。
3	学校や園での困り感があり、本来支援が必要なケースに対し、充分な対応ができていない。	保育所等訪問支援の知名度に地域差があり、相談員ですら充分に理解出来ていないことがある。	保育所等訪問支援としてではなく、報酬外で学校や園に訪問し助言を行ったり、現状報告書等の情報提供を行うなかで保育所等訪問支援について知ってもらうようにしている。